

# 市ヶ谷キャンパスにホットスポット

## 毎時0.65マイクロシーベルトの高線量！

### (千代田区基準値の2.6倍！)



# 11/6 もう黙ってられない！ 今こそ声をあげよう！！ 反原発一万人大集会へ！！

### 富士見校舎にホットスポットが！！

法大生のみなさん！ 大変な事実が発覚しました。

10月5日、法大当局は、高濃度の放射能（セシウム137）が観測されるホットスポットが市ヶ谷キャンパス内で多数発見されたことをHP上で発表したのです。法大イオンビーム工学研究所の調査によると、富士見校舎中庭の植え込みではなんと毎時0.65マイクロシーベルト（年換算で約6ミリシーベルト！）という高線量が観測されたということです。

この値は、千代田区が定める基準値（0.25マイクロシーベルト）の実に2.6倍に相当し、即時対策がとられなくてはならない数値です。法律では、毎時0.6マイクロシーベルト以上の場所は「放射線管理区域」とされ、18歳未満の子どもは立ち入り禁止、個人線量計の携行が義務づけられ、飲食も禁止されています。チェルノブイリ原発事故の際に「強制移住区域（＝無条件で居住が禁止される区域）」とされた放射線量（0.57マイクロシーベルト）をも上回ります。きわめて危険なホットスポットです。

しかも、このホットスポットが発見されたのは8月26日。事故発生から半年近く経ってこのような高線量が観測されたということは、前期の間はもっと高い線量がキャンパスに放出されていたということです。学生には何も知らされず、被曝させられてきたということです！！

### JRの労働組合＝動労水戸をがストライキ敢行！

野田政権は、広野町など福島県内5市町村の「緊急時避難準備区域」指定を解除した。それを受けてJR東日本は常磐線広野駅までの営業運転再開し、同駅に放置されていた放射能まみれの電車を運転させると宣言した。

この暴挙に対し、JR水戸支社の労働組合＝動労水戸が「被曝労働をさせるな！」「乗客と労働者を放射能の犠牲にするな！」と会社側を徹底弾劾し、これを阻止すべくストライキを決行している！



### 何一つ対策をとらない法大当局

ところが法大当局は、このような明らかな観測結果が出されても、「日常的生活では影響のないレベル」「線量が下がらない場合は対応する」などとして、当面何一つ対策をとらないというのです。すでに半年も放射能を放置し、学生を被曝させておいて、何もしないとは一体どういうことでしょうか！ しかも今回発見された

# 全学連

## 全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 mail\_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp/

# ICRPは「低線量でも健康被害」 甘い勧告さえ守らず

新基準で健康は守れるのか。保護者とも甲状腺検査に向かう子ども。福島市の県立医大病院で



「原子力推進の立場の」として、防護対策を怠る 住民に説明することだ」  
ICRPの勧告さえ、政 府は守っていない。低線量 被ばくで健康被害が出た。福島原発事故後、東電 ことを認めているのだ。福島府の会見出席して いる日岡 雄弁護士はこ う断言する。「原子力安 全委員会に質問する。ICRPの低線量被ばく についての見解を否定は しない。だが、ひきまう りで、具体的には何の対 策もしていない」  
例えは、年間〇〇 以下への被ばくなら健 康に影響はない」とい う。一部の専門家や政府、マ スコミによって広く出回 った言説がある。  
だが、ICRPは「一 〇〇〇以下であって も、線量その影響の発 生率に比例関係がある」と

## 「住民加わり地域目標を」

「あきれた話だが、そ れよりも重要なこと 文部科学省の担当者は、低線量被ばくでも起 くる健康被害をきちんと 会に一切出席してない し、今年九月二十日付で 辞任した」と釈明する が、事故後も委員だった ことは間違いない。  
今回、基本部会が同意 した被ばく線量の上限に ついて、沢井さんは「机 上の空論、基準値を決め るより先にすべきことが ある。この地域で生活す る、内部、外部併せて 被ばく量は一年でこの程 度になると試算をしな ければ、福島には、二 〇〇〇以下を超えてしま った」と懸念する。  
と、今回の被ばく 基準の上限である二〇 〇〇という数値はどの程 度なのか。

## 9月まで 福島原発の副所長も委員

「今年九月二十日付で 辞任した」と釈明する が、事故後も委員だった ことは間違いない。  
今回、基本部会が同意 した被ばく線量の上限に ついて、沢井さんは「机 上の空論、基準値を決め るより先にすべきことが ある。この地域で生活す る、内部、外部併せて 被ばく量は一年でこの程 度になると試算をしな ければ、福島には、二 〇〇〇以下を超えてしま った」と懸念する。  
と、今回の被ばく 基準の上限である二〇 〇〇という数値はどの程 度なのか。

小学校の除染のため、防水シートを敷き詰めた穴に埋められる表土。新基準は除染に影響しそうだ。9月、福島県南相馬市で

「放射線への感受性は 個人によって違う。年齢 構成をはじめ、地域ごと の特性もある。国が住民 にきちんと放射線情報を 提供し、住民主体で決め ていくことが大切だ」

ホットスポットの周辺は、毎日多くの学生が集まる憩いの場であり、学祭の時には出店が並ぶところでもあります。放射能を浴びながら学祭をやれとでもいうのでしょうか！？ だいたい、セシウム137の半減期は30年であり、放っておいて勝手に線量が下がるわけがない。当局は今すぐ対策を行え！

そもそも、「放射線は低線量であれば影響ない」などと言うのは、原発推進派が宣伝している「安全神話」にすぎません。実際には、セシウムなどが大気中に舞い上がり、呼吸を通じて人体に取り込まれると、「内部被曝」による深刻な健康被害を生涯にわたってもたらす可能性があります。内部被曝の場合、低線量でもガンや白血病を発症することは医学的にも証明されているのです。「線量が下がらなければ～」などと無責任な態度を決め込む法大当局は実に犯罪的です！

## 野田政権打倒の11・6大デモへ！

今、原発推進の野田政権のもとで、法大だけでなく福島や全国の人々にとてつもない被曝が強制されようとしています。政府の放射線審議会は、6日、住民の年間被曝線量の上限をこれまでの「1ミリシーベルト」から「1～20ミリシーベルト」へと緩和する方針を発表しました。

これは原発再稼働への動きと完全に一体です。

野田は「原発事故は収束に向かっている」などと主張し、「これからも原発を活用する。輸出もする」と公言していますが、現実には野田の発言とは裏腹に、収束どころか恐るべき放射能被害が現在進行形で拡大され続けています。しかし、野田はあくまで原発を推進するために、現実に存在する放射能被害をすべて「問題ない」「影響が出るレベルではない」と否定し、健康被害が出ても「放射能とは関係ない」と切り捨てようとしているのです。福島を命を叫びを無視抹殺し、私たちに放射能まみ

れの社会を押しつけながら、あくまでも原発だけは維持しようというのです！

ホットスポットを放置し、「影響がない」と言い張る法大当局の態度は、こうした政府の原発推進政策のお先棒を担ぐものであり、断じて許すことはできません。

法大当局は事実を隠すな！ 放射能対策を行え！

すべての学生のみなさん！ 今こそ、キャンパスから反原発・野田政権打倒の声を上げるときです。原発も放射能も私たちの生きる社会とは相いれられません。福島の怒りと命の叫びに応え、反原発の全世界一斉行動=11・6日比谷に集まりましょう！

## 11月6日(日)正午、日比谷野外音楽堂へ！

# 反原発×反失業！ 全国労働者集会

すべての原発を停止・廃炉に！ 新自由主義と闘う労働組合のネットワークを！ 解雇撤回—非正規職撤廃！



呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部 / 全国金属機械労働組合港合同 / 国鉄千葉動力車労働組合 [http://www.geocities.jp/nov\\_rally/](http://www.geocities.jp/nov_rally/)